

帰国者	父の氏名 家庭裁判所への就籍 許可申立日 兄弟姉妹数 身元判明状況	父の 出身	性 別	年 齢	出生 年月日	プロフィール
 新 ビエンベンドシオ	新 興次 2011年1月14日申立 2014年3月3日許可なし 判明済み 鹿兒島で縁談対面	鹿兒島	男	70	1944年4月28日	父は、1939年頃にダバオデルスル州マララグ町に来て、炭焼きの商売をしていた。父は現地語であるチャバカノ語を話すことができた。両親は、戦争中の1943年5月15日に母の実家で結婚式をあげた。結婚後、父の仕事の関係で両親は一旦バダグ町に移ったが、ビエンベンド出産のためにマララグ町へ戻り、1944年4月にビエンベンドが出生。1ヵ月後にバダグ町へ戻ったが、その後すぐに戦況が悪化し、再度マララグ町へ移った。それから父は日本軍に招集を受け、母とビエンベンドを連れて行きしたが、母の父に反対されたため断念。母とビエンベンドは山奥へ避難し、父のその後の消息は不明となった。フィリピン日系人リーガルサポートの調査により、2009年に父の戸籍が判明した。父は、フィリピンへ来る前に日本で結婚していたため、ビエンベンドは2011年に就籍を申し立てていた。本年3月に許可となる。
	付き添い	帰国者の現住所		ブキッドノン州キタオタオ町		
 ミヤケ イデオ (日本名ヒデオ)	ミヤケ イサム 2014年2月13日3(第3子) 未判明	広島	男	71	1943年5月5日	父は、戦前にパンパンガ州サスマン町にて漁師をしていた。親のように面倒を見てくれた地元の名士から「フランシスコ」というフィリピン名をつけられ、「イスコ」というニックネームでも知られていた。隣のルバオ町に住んでいた母と結婚し、ルバオ町でイデオの兄2人が出生。父は現地語であるカバンバゴン語やタログ語を話していた。戦争が始まると、父は日本兵となり、家族はマニラへ移った。イデオはそこで1943年に生まれた。終戦前に父とは連絡が取れなくなり、消息不明となった。イデオの出生証明書には、父に関して、名はイサム ミヤケ (Isame Miyake)、既婚、出生地は日本国広島と記録されている。
	付き添い	帰国者の現住所		パンパンガ州ルバオ町		
 カジワラ フェリクスベルト (日本名セギオ)	カジワラ アチロ / ハチロ 2014年2月25日4(第3子) 未判明	福岡	男	78	1935年12月28日	父は戦前にダバオオリエンタル州に渡り、初めは漁師として働き、その後ルボン町で、村里と森下という日本人とともにアバカ麻栽培に従事した。ルボン町のマカガオという地域で母と知り合い、フェリクスベルトを含む4人の子どもをもうけた。やがて戦争が始まり、戦況が悪化する。父と村里、森下は帰国することになった。父は、フェリクスベルトの兄と姉を連れ、「機会があれば日本に帰った後に迎える」と母に言い残して出発したが、ダバオ市内でフィリピン兵に銃で撃たれて亡くなった。フェリクスベルトの出生の記録がルボン町役場に残っており、子の名前ソゲ (Zogue・スギオの誤記と思われる)、父の名ハチロ カジワラ (Hachiro Cajiwara)、国籍は日本、出生地は日本国福岡とある。
	付き添い	帰国者の現住所		ダバオオリエンタル州ルボン町		
 タケシゲ ビクトリア	タキシギ クミオ 申立予定なし 未判明	山口	女	70	1943年10月18日	父と母が会ったのは戦中で、当時父は日本兵としてダバオトリルのキャンプに配属されていた。母は、日系のキャンディ工場に働いていたが、その工場が日本軍のキャンプにされ、キャンプ内で洗濯などの仕事をするうちに、父と知り合った。父は戦前アバカ農園で働いたが、一度日本へ戻り、日本兵としてフィリピンへ戻ってきたと母に話した。父が母を気に入り、教会で結婚式を挙げようとしたが、神父からの許可が出ず、バゴボ族の方式で1943年1月に結婚式を挙げた。同年10月に、父はオーストラリア方面へ向かう船に乗ったが、その後の消息は不明。父が去った後にビクトリアが生まれた。ビクトリアの洗礼証明書には、父の名クミオ タキシギ (Kumio Takishigui) と記録されている。
	付き添い	帰国者の現住所		ダバオ市カリナン		
 ヤギ ホセフィーナ (日本名ミチコ)	ヤギ セイコ 申立予定なし 未判明	不明	女	70	1944年5月7日	父は、戦前はダバオでアバカ麻の栽培をしていた。父と母が出会ったときは、日本軍がフィリピンを占領していた時期で、父はダバオ市役所で働いていた。二人は部族婚の方式で結婚し、ホセフィーナが1944年に生まれた。ホセフィーナが生まれた頃は、父は日本兵の制服を着て刀をさしていた。普段は日本軍のキャンプにあり、週一度、日用雑貨やミルクを持って自宅に戻ってきていた。米軍の攻撃が始まると、母はホセフィーナを連れて親戚とともに山へ避難した。山でグリラに遭い、母とホセフィーナは日本人の妻子だったために捕らえられ、グリラのキャンプに拘留された。この頃、自宅に戻ってきた父が、2人がいなくなっていることを見つけ、近くに住んでいた母の兄に2人の行方を尋ねたが、この時以来父の消息は不明。母とホセフィーナは母を気に入ったグリラの一人に命を救われ、母とグリラは戦後に結婚した。1978年に、ラジオで母や母の兄を探していた日本人がいたと人づてに聞いたが、ホセフィーナがそれを聞いたのは放送の半年後だった。本人の洗礼記録に、父の名セイコ ヤギと書かれている。
	付き添い	帰国者の現住所		ダバオ市マア		
 サトウ ラモン (日本名マサオ)	サトウ (名不詳) 2014年6月9日4(第2子) 未判明	東京	男	78	1935年11月8日	父は、戦前にコタバトへ渡り、木材の伐採や大工の仕事をしていた。父の仕事仲間には、クボタ、カトリ、ササキといった日本人がいた。父は、現地語であるチャバカノ語や母の部族であるティドゥライ族の言葉を話すことができた。両親はティドゥライ族の方式で結婚式を挙げた。その後、ラモンとヘンリーを含む4人の子どもがディナイグ町アワン村(当時)で出生した。父は、戦前に仕事でラオデルスル州バナゴ、マラバンに行っている間に亡くなり、そのままマラバンで埋葬された。戦争が始まると、サトウの子どもを探しに日本兵が訪ねてきたことが二度あったが、子どもたちを殺されたり連れて行かれたりするのを恐れた母が、子どもたちは病死したと日本兵に話した。小さい頃はそれぞれ「マサオ」「ヒデ」という名前を使用していたが、戦後になり洗礼を受けた際に「ラモン」「ヘンリー」という名前を授けられ、以降、書類上では洗礼名を使用している。
	付き添い	帰国者の現住所		マギンダナオ州ダトゥ オディン シンスアット町		
 サトウ ヘンリー (日本名ヒデ)	サトウ (名不詳) 2014年6月9日4(第4子) 未判明	東京	男	75	1938年6月19日	父は、戦前にコタバトへ渡り、木材の伐採や大工の仕事をしていた。父の仕事仲間には、クボタ、カトリ、ササキといった日本人がいた。父は、現地語であるチャバカノ語や母の部族であるティドゥライ族の言葉を話すことができた。両親はティドゥライ族の方式で結婚式を挙げた。その後、ラモンとヘンリーを含む4人の子どもがディナイグ町アワン村(当時)で出生した。父は、戦前に仕事でラオデルスル州バナゴ、マラバンに行っている間に亡くなり、そのままマラバンで埋葬された。戦争が始まると、サトウの子どもを探しに日本兵が訪ねてきたことが二度あったが、子どもたちを殺されたり連れて行かれたりするのを恐れた母が、子どもたちは病死したと日本兵に話した。小さい頃はそれぞれ「マサオ」「ヒデ」という名前を使用していたが、戦後になり洗礼を受けた際に「ラモン」「ヘンリー」という名前を授けられ、以降、書類上では洗礼名を使用している。
	付き添い	帰国者の現住所		マギンダナオ州ダトゥ オディン シンスアット町		